

使用に際してはこの添付文書をよくお読みください。
また、必要な時に読めるように保管しておいてください。

7 M X 0 5 T

**2017年12月改訂（第4版）
*2016年 3月改訂（第3版）

体外診断用医薬品

製造販売承認番号：227AAAMX00021000

ヒトL型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）キット

ルミパルス® L-FABP

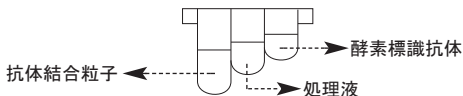
■全般的な注意

1. 本試薬は、体外診断用であるため、それ以外の目的には使用しないでください。
2. 診断・治療効果判定の際は、本測定値以外に他の検査結果や臨床症状等もあわせて考慮し、総合的に判断してください。
3. 添付文書以外の使用方法については保証を致しません。
4. 本試薬および検体は、感染の危険性があるものとして十分に注意して取扱ってください。
5. 本試薬には、保存剤としてアジ化ナトリウムが含まれています。試薬が誤って目や口に入ったり皮膚に付着した場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば、医師の手当等を受けてください。
6. 本試薬の使用に際しては、本書とあわせ、各試薬の添付文書、使用する測定システムの添付文書および取扱説明書をご参照ください。

■形状・構造等（キットの構成）

1. 抗体結合粒子^{注1)}（使用時液状、250μL/免疫反応カートリッジ）
抗L-FABPモノクローナル抗体（マウス）結合フェライト粒子を含みます。
2. 酵素標識抗体（液状、350μL/免疫反応カートリッジ）
アルカリホスファターゼ（ALP）標識抗L-FABPモノクローナル抗体（マウス）を含みます。
3. 処理液（液状、120μL/免疫反応カートリッジ）

免疫反応カートリッジ



4. L-FABPキャリブレーション：3濃度×1
(1) 0 ng/mL L-FABPキャリブレーション (液状、1.5 mL×1)
(2) 10 ng/mL L-FABPキャリブレーション (液状、1.5 mL×1)
(3) 400 ng/mL L-FABPキャリブレーション (液状、1.5 mL×1)
5. 基質液（液状、100 mL×6、50 mL×6）
基質としてAMP^{PD}^{注2)}を含みます。ご使用の測定システムに合わせてご用意ください。
6. 洗浄液（濃縮液、1000 mL×1）
7. 検体希釈液（液状、300 mL×4、80 mL×4）
ご使用の測定システムに合わせてご用意ください。

注1) 15℃以下の温度ではゲル化しています。

注2) AMP^{PD}：3-(2'-spiroadamantane)-4-methoxy-4-(3''-phosphoryloxy)phenyl-1,2-dioxetane disodium salt / 3-(2'-スビロアダマンタン)-4-メトキシ-4-(3''-ホスホリロキシ)フェニル-1,2-ジオキセタン・2ナトリウム塩

■使用目的

尿中のL型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）の測定

■測定原理

本試薬は2ステップサンドイッチ法に基づいた化学発光酵素免疫測定法によるL-FABP測定試薬です。

<反応プロトコール；特殊2ステップモード>

試薬・検体のセット

第一反応

抗体結合粒子に結合した抗L-FABP抗体と検体中に含まれるL-FABPによる免疫複合体が形成されます。
抗L-FABP抗体が結合した抗体結合粒子250μLに、処理液20μLと検体またはL-FABPキャリブレーション20μLが分注されます。反応液は、攪拌後37℃で10分間インキュベートされます。

洗浄

反応液除去の後、抗体結合粒子の洗浄が行われます。粒子は磁石によって集められ、反応液が除去されます。洗浄液注入、洗浄液の除去が繰り返され、粒子が洗浄されます。

第二反応

抗L-FABP抗体を介して結合した検体中のL-FABPと、アルカリホスファターゼ標識抗L-FABP抗体（酵素標識抗体）による免疫複合体が形成されます。
酵素標識抗体250μLと抗体結合粒子が混合されます。反応液は37℃で10分間インキュベートされます。

洗浄

再び反応液除去の後、抗体結合粒子の洗浄が行われます。粒子は磁石によって集められ、反応液が除去されます。洗浄液注入、洗浄液の除去が繰り返され、粒子が洗浄されます。

酵素反応

基質液200μLを粒子に加え攪拌後、37℃で5分間反応させます。

測光

波長477nmに発光極大を持つ光の発光量を測定します。
基質液に含まれるAMP^{PD}は、粒子に間接的に結合したアルカリホスファターゼの触媒作用により分解します。分解に伴って放出される光は、粒子に結合したL-FABP量を反映するため、これを測定することによってL-FABP濃度の測定を行うことができます。

検体中のL-FABP濃度が測定範囲を超えた場合は、必要に応じて検体希釈液を用いて検体を希釈し再測定してください。

■操作上の注意

1. 測定検体の性質、採取法

- (1) 可能な限り新鮮な検体を用い、保存する場合は、冷蔵保存したものを14日以内に測定するか、-60℃以下で凍結保存してください。
- (2) 検体を繰り返し凍結融解することは避けてください。
- (3) 赤血球・その他の有形成分、沈殿物、浮遊物が含まれている検体では、測定値に影響を与える場合があります。正しい結果が得られるように遠心または除去した後に使用してください。
- (4) 検体間の汚染が生じないように検体は注意して取扱ってください。
- (5) 蓄尿剤として塩酸およびホルマリンは使用しないでください。また、C-ペプチド安定化剤を添加した検体は使用しないでください。
- (6) 血管造影剤投与後24時間以内は一過性の腎虚血の影響により、尿中L-FABP値が高値を示す場合がありますので注意してください。

2. 妨害物質・妨害薬剤

- (1) 検体中に以下の物質を添加して試験した結果、記載の濃度まで、測定値に影響は認められませんでした。

物質	濃度	物質	濃度
ビリルビンC	18.5 mg/dL	アルブミン	1 g/dL
ビリルビンF	21.0 mg/dL	尿素	7.5 g/dL
ヘモグロビン	490 mg/dL	塩化ナトリウム	2 g/dL
グルコース	1000 mg/dL	アスコルビン酸	500 mg/dL
アセトン	100 mg/dL	エタノール	1000 mg/dL
クレアチニン	1000 mg/dL	リボフラビン	10 mg/dL

- (2) 10000 ng/mLの検体を測定した時、ハイドロブツクによる影響は認められませんでした。

3. その他

本試薬は全自動化学発光酵素免疫測定システム（代表例：ルミパルスG1200）用試薬です。

■用法・用量（操作方法）

1. 試薬の調製法

- (1) 抗体結合粒子、酵素標識抗体および処理液
免疫反応カートリッジには、抗体結合粒子、酵素標識抗体および処理液が充填されています。カートリッジケースの透明フィルムを剥がし、そのまま使用します。
 - ・免疫反応カートリッジを取扱う際に、振動を加えたり、逆さまにしたりしないでください。
 - ・免疫反応カートリッジを装置にセットする際は、カートリッジケースの透明フィルムを必ず剥がしてください。剥がし忘れや剥がし残りのある場合、装置の動作異常の原因となります。

- ・試薬項目および試薬ロットはカートリッジケースのバーコードによって管理されています。カートリッジケース間の免疫反応カートリッジの入れ替えは試薬の誤認識に繋がる可能性がありますので行わないでください。

(2) L-FABP キャリブレーション

- 常温（15～25℃）に戻してから軽く転倒混和して使用します。
- デッドボリウムを考慮して、サンプルカップに必要な量を滴下します。
- ・溶液1滴あたりのおよその滴下量は45μLです。滴下量は容器を押す強さや気泡の混入によって変動します。滴下の際に液滴の中に気泡が多量に混入する場合は、残量が僅かですので新しい試薬を使用してください。サンプルカップに泡が残りますとサンプリング不良の原因になる場合があります。
 - ・デッドボリウムはご使用の測定システムによって異なりますので各測定システムの取扱説明書をご覧ください。一例としてルミパルス G1200でサンプルカップをご使用の場合、デッドボリウムは100μLとなります。

(3) 基質液

- 冷蔵庫から出してそのまま使用します。
- ・基質液の漏れがないように装置にセットしてください。
 - ・基質液を装置にセットした後は、基質液交換時まで取外しは避けてください。基質液の注ぎ足しはしないでください。基質液がアルカリホスファターゼ（ALP）に汚染されますと使用できません。手指が直接基質液に触れた場合は、廃棄してください。

(4) 洗浄液

- 濃縮液のため精製水で10倍に希釈し、よく攪拌します。希釈した洗浄液は、常温（15～25℃）に戻してから使用します。

(5) 検体希釈液

- 15～30℃に戻してからそのまま使用します。
- ルミパルス G1200にセットする場合は、冷蔵庫から出してそのまま使用してください。

2. 必要な器具・器材

- (1) マイクロピペット、サンプリングチップおよびサンプルカップ
- (2) 全自動化学発光酵素免疫測定システム
- (3) LPコントロール・L-FABP（別売品）
精度管理用試料として、LPコントロール・L-FABPを推奨いたします。使用に際してはLPコントロール・L-FABPの取扱説明書を参照してください。

3. 測定法

- (1) 測定システムの取扱説明書を参照し、検体および測定に必要な試薬を所定の位置にセットしてください。（サンプルの最少必要量は、使用する容器や測定システムによって異なりますので、各測定システムの取扱説明書をご覧ください。）
- (2) L-FABP キャリブレーションおよび検体の測定依頼内容をそれぞれ入力します。
- (3) 測定を開始する前に、免疫反応カートリッジ、基質液、洗浄液、検体希釈液、サンプリングチップの残量を確認します。
- (4) スタートキーを押し、測定を開始します。装置内で自動的に実行される操作については測定原理の「反応プロトコル」の項をご参照ください。

4. 濃度の算出法

マスターキャリブレーションデータは、免疫反応カートリッジケースの2次元バーコードに記録されています。検体中のL-FABP濃度は、L-FABP キャリブレーションの発光量をもとに校正された検量線から自動的に算出されます。また複数装置をお使いの場合は1台ごとに検量線を作成してください。

- ・L-FABP キャリブレーションの測定は以下の場合に行います。
 - ・免疫反応カートリッジが、新しいロットに切り替わった場合。

- * 検量線を更新後、14日が経過した場合。
上記以外においても必要が生じた場合は、L-FABP キャリブレーションを測定し検量線を更新してください。

検体中のL-FABP濃度が、400ng/mLを超えた場合は、必要に応じて検体希釈液を用いて希釈し、再測定してください。なお、装置上で希釈する場合は、10倍希釈までの範囲で行ってください。

■測定結果の判定法

1. 参考基準範囲

尿中L-FABPの参考基準範囲としては、複数施設での検体群を用いた検討結果で、8.4μg/gCr以下と報告されております¹⁾。本試薬で健康人389例の尿中L-FABP濃度を所定の操作で測定した結果、9.5%信頼区間上限値として、7.24μg/gCr以下の結果が得られ、報告された尿中L-FABPの参考基準範囲、8.4μg/gCrとほぼ同等な結果を示しました。

2. 判定上の注意

- (1) 尿中クレアチニン値で補正して尿中クレアチニン1gあたりのL-FABP量（μg/gCr）を算出して判定してください。
- (2) 基準範囲は、測定条件や検体によって多少異なることがありますので、各施設に適した基準範囲を設定してください。
- (3) 検体中に存在する未同定の特異反応性物質の影響により、まれに測定値が正確に得られない場合がありますので、他の検査結果や臨床症状等もあわせて考慮し、総合的に判断してください。
- (4) 自己免疫疾患患者の検体では非特異的な反応がおこる可能性がありますので、他の検査結果や臨床症状等もあわせて考慮し、総合的に判断してください。

■臨床的意義

L型脂脂肪酸結合蛋白（L-FABP）は、腎臓において近位尿管に特異的に発現する分子量約14kDaの可溶性蛋白質で、生理的には腎臓の再吸収機能を担う尿管においてエネルギー及び脂質代謝に重要な働きをしていると考えられています²⁾。L-FABPは、腎疾患進行過程に出現する蛋白尿や微小血流障害などのストレスにตอบสนองして誘導を受け、尿中に排出されることから、腎機能障害の程度についての経過観察に有用です^{3～6)}。

本試薬は化学発光基質（AMPD）を用いた化学発光酵素免疫測定法⁷⁾（CLEIA；chemiluminescent enzyme immunoassay）に基づく試薬です。

■性能

1. 性能

(1) 感度

L-FABP キャリブレーションを所定の操作で測定するとき、10ng/mL L-FABP キャリブレーションと0ng/mL L-FABP キャリブレーションの発光量の比は20以上になります。

(2) 正確性

自家管理検体3例（低・中・高濃度）を所定の操作で測定するとき、測定値は各管理値に対して±20%以内になります。

(3) 同時再現性

自家管理検体3例を所定の操作で6回繰り返し測定するとき、変動係数（CV値）は10%以下になります。

(4) 測定範囲

本試薬の測定範囲は、0.50ng/mL～400ng/mLです。
全自動化学発光酵素免疫測定システム（代表例：ルミパルス G1200）では、0.10ng/mLから出力されますが、測定範囲下限値（0.50ng/mL）未満の値は参考値として取扱ってください。

2. 相関性試験成績

- (1) 尿検体111例を使用し、既存体外診断用医薬品（ELISA法）との相関性を検討した結果、以下に示す成績が得られました。
測定例数：n=111
相関係数：r=0.96
回帰式：y=1.07x+1.78
（x；他社 ELISA法、y；ルミパルス L-FABP）
- (2) 尿検体101例を使用し、既存体外診断用医薬品（ELISA法）との相関性を検討した結果、以下に示す成績が得られました。
測定例数：n=101
相関係数：r=0.95
回帰式：y=1.02x-0.06
（x；他社 ELISA法、y；ルミパルス L-FABP）

■使用上又は取扱い上の注意

1. 取扱い上（危険防止）の注意

- (1) 検体は感染の恐れがあるものとして注意して取扱ってください。
- (2) 検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、また口によるビベッティングを行わないでください。
- (3) 基質液はアルカリ性溶液（pH10）です。使用に際しては、液が皮膚についたり、目に入らないように注意してください。
- (4) 試薬が誤って目や口に入った場合は、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば、医師の手当等を受けてください。

2. 使用上の注意

- (1) 使用に際しては本書、使用するシステムの添付文書および取扱説明書に記載された使用法に従ってください。
- (2) 免疫反応カートリッジ（抗体結合粒子・酵素標識抗体・処理液）、L-FABP キャリブレーション、基質液、洗浄液、検体希釈液は個別に包装されていますので、ご使用の測定システムに合わせ、組み合わせて使用してください。
- (3) 使用期限を過ぎた試薬は使用しないでください。各構成試薬外箱および容器の表示をご確認のうえ使用してください。
- (4) サンプリングチップ、サンプルカップは指定のものを使用してください。
- (5) サンプリングチップ、サンプルカップは常に新しいものを使用してください。
- (6) 試薬は保存条件を守って使用してください。特に凍結しないように注意してください。
- (7) 保管に冷蔵庫をご使用の場合、庫内のファンからの風が直接当たる場所および庫内最下部での保管は、温度変化により水分蒸発の原因となりますので避けてください。
- (8) 検体およびL-FABP キャリブレーションは蒸発による濃縮を考慮し、サンプルの準備後は速やかに測定を開始してください。
- (9) 正確な測定を行うために、精製水は常に新しいものを使用してください。
- (10) ソーダライムは交換せずに長期間使用を続けると、二酸化炭素の吸収力が低下します。また基質キャップバックキンも交換せずに長期間使用を続けると、密閉性が失われ基質液を劣化させる原因となります。ソーダライムと基質キャップバックキンの交換時期についてはご使用の測定システムの取扱説明書をご覧ください。

3. 廃棄上の注意

- (1) 各試薬には保存剤として以下のとおりアジ化ナトリウムが含まれています。廃棄する際は爆発性の金属アジドが生成されないように多量の水とともに流してください。
洗浄液：1.0%（希釈調製前）
基質液：0.05%
抗体結合粒子、酵素標識抗体、処理液、L-FABP キャリブレーション、検体希釈液：0.1%

- (2) 試薬および容器等を廃棄する場合は、廃棄物に関する規定に従って、医療廃棄物または産業廃棄物等区別して処理してください。
- (3) 廃液の廃棄にあたっては、水質汚濁防止法などの規制に従って処理してください。
- (4) 使用した器具（ビベット、試験管等）、廃液、サンプリングチップ等は、次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度 1 0 0 0 p p m、1 時間以上浸漬）、グルタルアルデヒド（2 %、1 時間以上浸漬）等による消毒処理あるいは、オートクレーブ（1 2 1 ℃、2 0 分以上）による滅菌処理を行ってください。
- (5) 検体、廃液等が飛散した場合には次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度 1 0 0 0 p p m、1 時間以上浸漬）、グルタルアルデヒド（2 %、1 時間以上浸漬）等によるふき取りと消毒を行ってください。
- (6) 消毒処理に使用する次亜塩素酸ナトリウム溶液、グルタルアルデヒド溶液が、皮膚についたり、目に入らないように注意してください。

■貯蔵方法・有効期間

* 抗体結合粒子	2 ～ 1 0 ℃に保存	有効期間：9 ヶ月
* 酵素標識抗体	2 ～ 1 0 ℃に保存	有効期間：9 ヶ月
* 処理液	2 ～ 1 0 ℃に保存	有効期間：9 ヶ月
* L－F A B P キャリブレータ	2 ～ 1 0 ℃に保存	有効期間：9 ヶ月
基質液	2 ～ 1 0 ℃に保存	有効期間：9 ヶ月
洗浄液	2 ～ 1 0 ℃に保存	有効期間：9 ヶ月
検体希釈液	2 ～ 1 0 ℃に保存	有効期間：9 ヶ月

使用期限については、各構成試薬の外箱および容器の表示をご参照ください。

■包装単位

個別包装

ご使用の測定システムに合わせてご用意ください。

コードNo.	品名	包装
2 9 8 0 3 9	ルミパルス L－F A B P 免疫反応カートリッジ (抗体結合粒子・酵素標識抗体、処理液)	1 4 テスト×3
2 9 8 0 4 6	ルミパルス L－F A B P L－F A B P キャリブレータ	3 濃度×1
2 1 9 9 7 3	ルミパルス 基質液 (共通試薬)	1 0 0 m L × 6
2 9 2 6 0 0	ルミパルス 基質液 (共通試薬)	5 0 m L × 6
2 1 9 9 4 2	ルミパルス 洗浄液 (共通試薬)	1 0 0 0 m L × 1
2 1 9 9 3 5	ルミパルス 検体希釈液 (共通試薬)	3 0 0 m L × 4
2 9 2 6 1 7	ルミパルス 検体希釈液 (共通試薬)	8 0 m L × 4

その他

L P コントロール・L－F A B P 2 濃度×2 (コードNo. 2 9 8 0 5 3)

■主要文献

1. Kamijo-Ikemori A, et al. Clinical significance of urinary liver-type fatty acid-binding protein in diabetic nephropathy of type 2 diabetic patients. Diabetes Care, 34: 691-696, 2011.
2. Veerkamp JH and Maatman RG. Cytoplasmic fatty acid-binding proteins: their structure and genes. Prog Lipid Res, 34: 17-52, 1995.
3. 菅谷健. 脂肪酸結合蛋白に着目した腎疾患治療薬開発の試み. 細胞. 37: 24-27, 2001.
4. 上條敦子 他. 臨床病理. 51: 219-224, 2003.
5. Kamijo A, et al. Urinary excretion of fatty acid-binding protein reflects stress overload on the proximal tubules. Am J Pathol, 165: 1243-1255, 2004.
6. Kamijo A, et al. Clinical evaluation of urinary excretion of liver-type fatty acid-binding protein as a marker for the monitoring of chronic kidney disease : A multicenter trial. J Lab Clin Med, 145: 125-133, 2005.
7. Nishizono I, et al. Rapid and Sensitive Chemiluminescent Enzyme Immunoassay for Measuring Tumor Markers. Clin Chem, 37: 1639-1644, 1991.

■問い合わせ先

**富士レビオ株式会社 お客様コールセンター
TEL : 0120-292-832

■製造販売元

富士レビオ株式会社
東京都八王子市小宮町 5 1 番地

